

導入事例 014

松阪地区広域消防組合消防本部 様

wrappon
×
Disaster
災害



支援車I型

支援車I型 トイレ設備は衛生面でも ラップオンが決めて。

火災・災害現場での隊員のトイレ

平成22年2月に導入された支援車は、災害現場において、活動隊員をサポートし、また、多数傷病者発生時には応急救護所の役割を果す等、管内の安全・安心確保のために導入されました。車内には、キッチンスペース・ミーティングスペース・工具収納庫・トイレが完備されており、サポートに必要な装備はほぼ整っています。災害支援はこのほど、長期スパンの展望から短期のスパンにも対応できるものへと変更しトイレの設置も配管設備等が必要ない簡易トイレが望ましく、その利便性から「ラップオン・トレッカー」が選定されました。

「これまでの災害現場でのトイレは民家でお借りすることもあれば、現場でどうしても処理をしなくてはならないことも多々ありました。この点で、手間をかけずに処理が完了する点でラップオン・トレッカーが適していました。」（野呂総務課長様）

トイレは命に関わるもの

「防災商品における一般論として優先順位は1. 飲・食料、2. 衣類、3. トイレと言われております。食料等は5～6時間我慢することが出来ますが、トイレは我慢できませんし、かつての災害現場でも一次災害よりもエコノミッククラス症候群などの2次災害の問題が取り上げられ、トイレの重要性が認知されるようになってきております。」（野呂総務課長様）



説明会の様子

災害時の仮設のトイレは和式であるため、使用が困難な方も多く、汲取りが追いつかない場合、不衛生な状況になり、特に女性にとっては深刻な問題となります。災害時、最前線でトイレの状況を見、経験されているからこそ、衛生面でもラップオン・トレッカーが最適であると、導入に至りました。



支援車I型とは、地震・台風等の大規模災害時において長期にわたる活動を支援するため、大規模災害現場での情報収集・分析・連絡・指揮に優れた威力を発揮する消防車です。



松阪地区広域消防組合消防本部前

Interview

総務課
参事官兼総務課長
消防監 野呂 敏弘様

導入商品

ラップオン・トレッカー



松阪地区広域消防組合消防本部

市役所住所 三重県松阪市川井町1001番地1
職員定数 275人
管轄面積 767.86km²
消防署数 4(松阪中消防署・松阪南消防署・松阪北消防署・明消防署)
分署数 5(三雲・飯南・飯高・多気・松阪勢和)
URL <http://www.mie-matsusaka119.jp/>

ラップオン セイフティーコール Free Call **0120-208-718** <http://www.wrappon.com>
E-mail: kaigo@nihonsafety.com

資料ご希望の方は、フリーダイヤル・メール・ホームページからお気軽にどうぞ

日本セイフティー株式会社 ラップオン事業部 〒112-0002 東京都文京区小石川1-3-11